

わが

世界に誇る健康・安心のまち 「健康医療先進都市」を目指して

はじめに

山形市は、四方に仰ぎ見る山々、馬見ヶ崎川をはじめとした河川の清らかな流れなど、豊かな自然に囲まれた市街地と田園が共存する美しいまちです。

古くは山岳信仰が栄え、その後は、出羽山形藩主である最上義光

公が築いた城下町を核として発展してきました。明治維新後は山形県庁が置かれ、県都として現在に至っています。

市街地には、国指定史跡の霞城公園（山形城跡）、重要文化財に指定されている郷土館（旧済生館本館）、文翔館（旧山形県庁）があり、市街地周辺にも、松尾芭蕉の「奥



最上義光公の騎馬像

の細道」の歌枕として有名で国指定名勝史跡の山寺・立石寺、山岳信仰の名残を留める日本最古の石鳥居など、歴史的にも価値の高い社寺や建造物、史跡などが数多く現存しています。

また、城下町という歴史的背景から、鋳物や仏壇、打刃物、建具などの伝統工芸をはじめ、さまざまなものづくりの産業が発展してきました。霞城公園内に最上義光公の騎馬像がありますが、全国でも類を見ない騎馬が二本足で立っている銅像です。銅像の重さは約3t。「絶対に無理」と言われつつも、職人さんが奮起し、伝統の技を結集して実現したものです。まさに本市のものづくりのレベルの高さを象徴する存在といえます。

現在、本市はユネスコの創造都市ネットワークへの加盟を目指しています。山形国際ドキュメンタリー映画祭などで実績を重ねてきた映像文化に加え、先ほど述べました文化資源や伝統工芸など本市独自の強みを生かしながら、まちの総合的な魅力を高めていきたいと考えています。

また、「医療」と表裏一体の関係にある「健康」を重視し、健康寿命を延ばす、生涯を通じた健康づくりを進め、医療・介護・地域・NPO・企業などの連携による地域包括ケアの体制づくりに取り組んでいます。

年齢を重ねても、健康で生き生きと暮らすことができ、いざという時には質の高い医療・介護が受けられるまち、また、最先端の医療関連産業が花ひらくまち、それをきっかけとして、山形を訪れる人でにぎわうまちを目指しながら、都市ブランドとしての「健康

健康医療先進都市を目指して

と考えています。

本市は、総合病院や診療所など

の医療インフラが数多く立地し、「医療」に強みを持っている都市です。また、最先端医療として、東北・北海道では初となる重粒子線がん治療施設が山形大学医学部に設置されます。

また、「医療」と表裏一体の関係にある「健康」を重視し、健康寿命を延ばす、生涯を通じた健康づくりを進め、医療・介護・地域・NPO・企業などの連携による地域包括ケアの体制づくりに取り組んでいます。

年齢を重ねても、健康で生き生きと暮らすことができ、いざという時には質の高い医療・介護が受けられるまち、また、最先端の医療関連産業が花ひらくまち、それをきっかけとして、山形を訪れる人でにぎわうまちを目指しながら、都市ブランドとしての「健康

医療先進都市」を確立していきたく
いと考えています。

仙山交流の推進

仙台市と本市は、県庁所在地同士が隣接するという全国でも珍しい立地にあります。こうした特徴を生かして、民間はもとより、行政としてもしっかりと手を取り合って連携できないかと、仙台市と協議を進めてきました。

その成果もあり、平成28年11月に仙台市との間で、包括的な連携協定を締結するに至りました。今後は、ビジネス支援や観光交流、防災、交通ネットワークなどの分



平成28年11月に締結した仙台市との連携協定

野で連携を深め、両市の行き来や交流、経済的な取り引きなどを通じて、お互いプラスになるような関係を築いていきたいと考えています。

中核市への移行

現在、本市は平成31年4月からの中核市移行を目指しています。

中核市への移行は、本市政の大きな転換点になります。特に移譲事務の中心となる保健所の設置は、「健康医療先進都市」実現の一翼を担う重要な役割を果たすものと考えています。既存の市保健センターの業務との連携を図りなが



中核市について広く市民に理解してもらうために開かれた「中核市市民講演会」

ら、相乗効果を生み出せる効果的な施策を進めていきます。

また、中核市への移行後は、さらなる行政サービスの向上と圏域の発展を図るため、連携中枢都市圏形成に向けた取り組みを進めていきます。

おわりに

私が市長に就任してからのこの1年余り、市民の皆さんとともに

目指していくまちづくりのため、「山形市発展計画」を策定し、さまざまな新たな施策の種をまいて育ててきました。結実してきたものもあれば、芽吹いたばかりで、まだまだ育てていかななくてはならないものも数多くあります。たとえ時間の掛かることでも少しずつでも前に進み続ける、そのようなチャレンジを日々続けていきたいと考えています。

プロフィール

- ◆ 面積 381.58 km²
- ◆ 人口 24万9251人
- ◆ 世帯数 10万1431世帯

〔将来都市像〕世界に誇る健康・安心のまち「健康医療先進都市」

〔まちの特徴〕蔵王連峰など四方を山々に囲まれ、四季の変化に富んだ豊かな自然と、歴史と伝統のあるまち

〔特産品〕山形鑄物、山形仏壇、打刃物、和傘、紅花、啓翁桜、山形牛、悪戸いも、山形芋煮、蕎麦、冷やしラーメン、



山形市長
佐藤孝弘



〔観光〕蔵王温泉、山寺（宝珠山立石寺）、県郷土館文翔館、山形城跡霞城公園、やまがた舞子、蔵王の樹氷

〔イベント〕霞城観桜会、薬師祭植木市、山形花笠まつり、山形大花火大会、日本一の芋煮会フェスティバル、山形まるごとマラソン、蔵王樹氷まつり、山形市初市

どんどん焼き、玉こんにゃく

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

世界遺産にふさわしいまち 「とみおか」へ

はじめに

富岡市では、本年度から第2次富岡市総合計画をスタートさせ、「世界遺産にふさわしいまち とみおか」を将来像に掲げ、まちづくりの基本方針を明確に示しました。



保存修理工事を行っている「西置繭所」外観

計画では、特に「少子高齢化や人口減少への対応」「富岡製糸場を核としたまちづくり」の2点を重点施策として位置付けました。そこで、本稿では、まちづくりの中核的な役割を担う富岡製糸場について、その価値の伝承のための施策を中心に取り上げていきます。

西置繭所保存修理工事

にしおきまゆしよ西置繭所は、主に繭を貯蔵していた建物で、南北に約104mあり、木骨煉瓦造という特徴的な工法で建てられており、骨組みは木造、壁は「フランス積み」の煉瓦壁です。

保存修理工事では、耐震補強や公開活用のための整備も同時に検討し、これらを緊密に連携させることで、建物をより良く保存し、魅力を十分に生かすことを目指します。特に公開活用においては、富岡製糸場の価値を伝えるためのイベントが行えるホールや展示解説などができるスペース、ギャラリーなどを設け、学習や教育普及の役割を持たせながら文化財の価値を損なうことなく整備を行います。

現在、西置繭所を覆う素屋根に付随して、見学施設が設置されており、西置繭所の軒の高さで約104mの長さを見通していただけるとともに、日々作業が進む工事の様子を間近で見学することができます。

文化財建造物の保存修理工事は、時間と費用を要する事業ですが、貴重な文化財を後世に伝え残すことは、重要かつ喫緊の課題といえます。

実際の保存修理の現場を多くの方にご覧になっていただき、事業に対しての理解を深める機会とさせていただければ幸いです。

ブリュナエンジン 復元機の展示

「ブリュナエンジン」とは、富岡製糸場設立の指導者であるフラン



富岡製糸場を支えた動力源「ブリュナエンジン復元機」

ス人ポール・ブリュナが導入した横形単気筒蒸気機関で、通称「ブリュナエンジン」と呼ばれています。

繰糸器械などを動かす動力源として当時使われてきましたが、その実物は、博物館明治村(愛知県)に展示されております。

現在、富岡製糸場で展示する復元機は、富岡商工会議所が、ブリュナエンジン製作委員会を組織して、近代産業発祥の地にふさわしい、将来に残せる工業界のシンボルとして、製作したものです。

当時、富岡製糸場を支えた動力

源である「ブリュナエンジン」について、その迫力を感じていただき、また、楽しみながら知識を深めていただけるよう、このたび、富岡製糸場内に展示することとなりました。

養蚕振興

富岡製糸場を語る上で欠かすことのできない養蚕ですが、現在、市内の養蚕農家は12戸のみで減少傾向にあり、その存続は危機的状況といえ、このままでは市内から養蚕そのものが失われてしまう恐れすらあります。

日本近代化の礎とも言える蚕糸業のシステムがこの地で生き続けることは、富岡製糸場の真の価値を語る上で必要不可欠であると言えます。

そのような中、養蚕を絶やさぬため、また、絹文化の継承を推進するための新たな試みとして平成27年度から、「市民養蚕」を始めました。

希望する市民の方に、富岡製糸場への理解と養蚕に対する愛着を深めていただくことを目的として、1人100頭ずつ、お蚕を飼っていただきました。

また、現養蚕農家、新規就農者、企業養蚕、地域養蚕への支援も併せて行うことにより、繭の増産を計画していきたいと考えております。

富岡製糸場映画

「紅い襷 La Chronique de TOMIOKA 富岡製糸場物語」と題した映画の制作が行われております。

この映画では、ドキュメントを軸に、フランス人ポール・ブリュナの物語と、富岡で働く工女たちの人間ドラマを映し出します。

また、明治初期に富岡の地で出会った西洋と日本、そして、国籍や立場を超えた友情や現代にも通じる女性の自立について描く内容となっております。

その当時、日本近代化を支えたのは「絹」であり、工女たちの手によりつくり出される生糸こそ近代日本を築き上げた、その原点であるといえます。

本年秋の劇場公開を予定しておりますので、多くの皆さまにこの映画を通して、世界の宝である富岡製糸場の歴史と価値を知っていただき、同時に、日本の近代化を担った若き工女の姿をご覧ください。

おわりに

世界遺産を擁する私たちには、この富岡製糸場をしつかりと守り、後世へ伝えていくという大きな責任と使命があります。

この世界の宝を後世に伝承していくための礎、それは多くの皆さまの関心と正しい理解であると考えております。

今後も、富岡製糸場の持つ価値を多くの方に理解していただくこ

プロフィール

- ◆ 面積 122.85km²
- ◆ 人口 4万9863人
- ◆ 世帯数 1万9804世帯

〔将来都市像〕世界遺産にふさわしいまち とみおか

〔まちの特徴〕世界遺産「富岡製糸場」を擁する、歴史と文化の薫るまち

〔市町村合併〕平成18年3月27日、富岡市・妙義町の1市1町が合併



富岡市長
岩井賢太郎



〔特産品〕こんにゃく、いも、しいたけ、ねぎ

〔観光〕富岡製糸場、貫前神社、妙義神社、市立美術館・福沢一郎記念美術館、県立自然史博物館、妙義山

〔イベント〕富岡どんとまつり、富岡市産業祭、妙義山ヒューライドin富岡、群馬サファリ富岡マラソン大会

と、また、さらなる魅力の発信のため、乾燥場・繭扱場、社宅など見学施設の拡充について計画しておりますので、新たな広がりを見せる富岡製糸場にご期待ください。

そして、ぜひとも多くの皆さまに富岡製糸場にお越しいただき、真の価値に触れていただくとともに、理解を深めていただければ幸いです。

皆さまのお越しを心よりお待ちしております。

※ 面積は国土地理院「全国都府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

みんなで創る 快適実感都市 「たつの」を目指して

自然と歴史に彩られたまち

たつの市は、播磨平野を南北に貫く揖保川を中心とした豊かな自然と時代絵巻のように色濃く残る縄文時代からの遺跡、平安時代の神社、江戸時代からの古い町並みといった歴史と文化に彩られています。



全国の乾めん産地が集結した「全国そうめんサミット2016～未来へ発信 in たつの～」

母なる揖保川の清らかな流れはもちろん、北部の山々や鶏籠山などの豊かな緑、瀬戸内海国立公園の中で閑西随一の遠浅海岸・新舞子浜、桜、紅葉、梅林などの自然資源や、国指定史跡

の新宮宮内遺跡、国指定重要文化財の賀茂神社、永富家住宅、堀家住宅、また、播磨の小京都と称賛される龍野城と脇坂藩5万3千石の城下町に連なる古い町並み、江戸時代に海の宿駅として栄えた室津港などの歴史的資源も豊富で、輝きを発信しています。

平成29年度は新たな総合計画を始動する年でもあるため、これらのあふれる魅力を最大限に生かし、住んでみたい、住み続けたい、住んで良かったと実感できる誇りと愛着に満ちたまちづくりを進めています。

住んでみたい（情報発信）

清流揖保川の豊かな恵みは、手延素麺、醤油醸造、皮革産業など伝統的な地場産業を脈々とほぐくんできました。中でも平成28年5月にわが国初となる「全国そうめんサミット」を開催し、手延素麺「揖保乃糸」を全国に強力に発信すると同時に、生産地である「たつの市」を広くアピールしました。

平成26年度には淡口醤油の発祥の地として、「全国醤油サミット」も開催し、世界遺産としての和食文化の普及にも一役買いました。また毎年、多くのレザーファンを魅了する皮革まつりも盛大に開催し、三大地場産業の情報発信を精力的に展開しています。

全国の自治体で地方創生が叫ばれる中、本市では「ないものねだり」をするのではなく、「あるものさがし」の原点に戻り、本市の財産であります「人」「文化」「歴史」「産業」「自然」の地域資源をさらに魅力的に磨き上げ、選ばれるまち、住んでみたいまちに向かつて、まちづくりに果敢に挑戦して参ります。

住み続けたい（行政施策）

本年度から本市の地方創生戦略「まち未来創生戦略」の一環として、市内企業と連携し「子育てできらきらクーポン事業」を開始しました。子育て家庭を応援するため、第2子目以降の中学生までの児童に対して5000円分の市内限定クーポン券を交付しています。また、「子育て世代包括支援センター」を開設し、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない相談・支援体制を整えます。

一方、「学都たつの」を掲げ、平成28年9月には食育の観点から地産地消を基本とした中央学校給食センターを整備し、市内全域に温かい学校給食を提供する体制を整えました。さらに、不登校・いじめなど複雑化する教育問題に対応するため、きめ細かな教育の推進はもちろん、連携型小中一貫教育を推進します。また、平成27年10月



150カ所の会場、約250イベントやお店が開かれた「第14回オータムフェスティバルin龍野〜味のある 手仕事似合う城下町〜」

す。本年1月からは地域公共交通ネットワークの強化を図るため、コミュニティバスの圏域運行が始まりました。また、3月には生活機能（雇用・企業誘致の推進）の強化の一

に締結した米国ワシントン州コビントン市との姉妹都市提携により、平成28年8月には中学生10名を訪問団として派遣しました。ホームステイを通して異文化を体験し、ネイティブな英語に触れることによってグローバルな見識、そして、多文化共生の視点に目覚めきつかけになったと思われま

人口減少下における地方創生への取組に当たっては、近隣自治体との連携が不可欠であります。このような観点から、平成28年3月に本市が中心市となり、近隣1市2町と定住自立圏形成協定を結び、圏域の生活機能強化、結びつきやネットワークの強化、マネジメント能力の強化を図っています。

環として、就職・定住応援フェアを開催し、若年者と地元採用を指す企業との掛け橋の場となるよう圏域において雇用の確保に努めます。

選ばれるだけでなく、末永く住み続けていただくためにも、よりよい快適なまちづくりを推し進めています。

住んで良かった(主役は市民)

住み続けていただくためには、市民満足度を充実させなければなりません。本市の魅力に磨きをかけ、その輝きを増すためには、市民自らが主体となって、「こんなまちにしたい」という希望と自信を持ち、主体的に参加していただくことが何よりも重要となります。

JR姫新線では、沿線住民の協力とマイルール意識の向上によって、全国のローカル鉄道では類を見ない驚異的な乗車率アップを実現し、平成27年度に念願の年間乗車人員300万人を達成しました。また、秋の紅葉シーズンに龍野の城下町で行われる「オータムフェスティバルin龍野」には開催3日間で計約11万5000人が訪れていたいただきました。これらのよ

うな取組と実績は市民が主体となつたにぎわい創出への大きな成果であります。

このように市民パワーは本市において着実に根付き、大きく増幅されつつあります。市民主役の気運を持続し、さらに拡充するた

プロフィール

- ◆ 面積 210.87km²
- ◆ 人口 7万8231人
- ◆ 世帯数 3万274世帯

〔まちの特徴〕農産物、瀬戸内魚介類をはじめ、風土が生み出した手延素麺や醤油醸造、皮革産業といった全国に誇れる地場産業を有し、さらに、播磨科学公園都市では世界最高性能の大型放射光施設Spring8とX線自由電子レーザー施設SACLAなど学術研究機関などが集積し、国際的な科学公園都市を目指すまち

〔市町村合併〕平成17年10月1日、龍野市・新宮町・揖保川町・御津町

〔特産品〕醤油、手延素麺、皮革、紫黒米、揖保川トマト、梅製品（ジャム・



たつの市長
栗原 一



ワイン、いかなごぎ煮、牡蠣

〔観光〕龍野城、聚遠亭、龍野公園、新宮宮内遺跡、東山公園、ヤッホの森、コスモス畑、世界の梅公園、賀茂神社、道の駅みつ

〔イベント〕たつの市さくら祭り、龍野武者行列、新宮納涼ふれあいまつり&花火大会、みつ海まつり サンセットフェスティバル、たつの市揖保川いかだ下り大会、龍野納涼花火大会、童謡の祭典、たつのふるさとフェスタ、しんぐう楽市楽座、たつの市商工業まつり、八朔のひな祭りin室津、室乃津祭、たつの市皮革まつり、オータムフェスティバルin龍野、たつの市梅と潮の香マラソン大会、室津かきまつり、みつ梅まつり、龍野ひな流し

め、市民・行政だけではなく地元企業や各種団体などを含め、連携・協働しながらまちづくりを進めていくことによって、目標とする「みんなで創る 快適実感都市 たつの」を実現できるものと確信しています。

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

人が輝き 活力あふれる 日本の宝島「天草」

4年間で1000法人
3000人の雇用創出を！

雇用の場を増大するため、天草市起業創業・中小企業支援センターを設立し、1000の法人設立を目指す

天草市は、人口減少や少子高齢化、さらには、物流体系の条件の悪さなどによる地場産業の低迷が



平成27年4月に開設した「Ama-biz」

拍車を掛け、過疎化の進行が最大の課題となっています。そのため、雇用の場を作り出していくことが肝要であるとして、企業誘致に取り組んできましたが、思うような成果を見出すことができない状態が続いていました。このよう

な中、「1社1000人の企業誘致よりも、地場の中小企業100社1000人の雇用」という富士市産業支援センターの取り組みに感銘を受け、これまでの雇用創出にかかる施策の考え方から大きく舵を切り変え、中小企業支援へと動き出しました。

まず、「天草市の厳しい経済の現実を直視したうえで、各産業支援機関の力を結集し、強力な支援体制を責任ある公的産業支援機関として構築する」ことを方針に掲げ、本市、本渡商工会議所、牛深

商工会議所、天草市商工会、さらには地元金融機関である天草信用金庫が構成団体となり、一般社団法人天草市起業創業・中小企業支援機構（以下「支援機構」という）を平成26年11月に設立しました。

平成27年4月には、地域密着型・ワンストップ型の支援を行う「天草市起業創業・中小企業支援センター」（通称：Ama-biz アマビズ）の運営を支援機構に対し委託するという形でオープンいたしました。

また、本市では地域産業連携・支援による雇用の創出施策として、産業振興チャレンジ基金7億円を創設し、起業創業や事業規模拡大などの新たな事業展開にチャレンジする取り組みを支援することにより、雇用機会の創出および産業の振興を図っております。

平成28年3月までの1年間の実績では、Ama-bizを465事業者（人）が利用され、そのうち約15%の方々は実際に売り上げがアップし、さらに新規創業件数30件、創業による雇用人数80人の実績を上げることができました。

Ama-bizは、天草で頑張っている中小企業者・自営業者や起業家の方々に光を当て、より輝けるよう無料で利用できる産業支援拠点となっております。

また、天草地域の新鮮で高品質な農林水産物や加工品などの天草の物産情報を広く発信することに、販路拡大を図ることと物産品の調査研究、新たな物産の開拓を行うことを目的とした「天草宝島物産公社」を設立し、商談会の開催などのマッチング機能の充実、地域産品の情報の集約化と発信などの事業を実施しております。

さらには、Ama-bizの「真のセールスポイントやターゲットを見出し、チャレンジ意識を高める伴走役」としての強み、天草宝島

物産公社の「販路開拓や販路拡大の縁結び(橋渡し)役」としての強みを連携させて、生産者や事業者の皆さまの支援を行う事業が平成28年12月に「国の地方創生推進交付金」の採択を受けました。今後両者が連携してさらなる商品の磨き上げや新商品開発の支援を行ってまいります。

世界文化遺産候補

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」は江戸幕府の厳しい禁教政策の中、潜伏キリシタンの密かな信仰の継承と日本独自のキリスト教信仰をはぐくんだ歴史を象徴する、世界に類を見ない文化遺産です。

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産の一つである天草下島に所在する「天草の崎津集落」。

この集落は、日本在来の宗教である仏教や神道とキリスト教の交流と共存を示す漁村集落であり、キリスト教布教から弾圧・潜伏、

復活に至る歴史の痕跡を今日まで残しています。

キリスト教禁教期には、村人の多くが潜伏キリシタンでしたが、表向きは仏教徒や神社氏子となり、自らの信仰を守りながら「水方」と呼ばれる指導者の下、密かに洗礼や宗教儀礼を行いました。

集落を一望する高台にある崎津諏訪神社は、集落の約70%が潜伏キリシタンと発覚する「天草崩れ」(1805年)の舞台です。

250年続いたキリスト教の禁教が解かれると、多くの住民はカトリックに復帰しました。現在、集落のシンボルとなっている崎津教会は、キリシタン弾圧を象徴する「絵踏」を行った庄屋役宅跡に建てられています。

このような素晴らしい文化遺産を有する「崎津集落」では、増加する観光客を受け入れるための施設整備を行っています。初めに、平成28年4月、「崎津集落ガイドンスセンター」をオープンしました。この施設は、訪れていただく観光客の皆さまへ、当該地区について歴史的・文化的価値への理解を深めていただくとともに、崎津集落内での観光マナーや崎津教会

での拝観マナーなどをガイドする施設です。また、崎津の歴史や独特のキリスト教信仰について紹介するため、昭和11年に建てられた旅館を改修した「崎津資料館みなと屋」を平成28年8月にオープンしました。

今後とも着々と準備を進めることで、平成30年の世界文化遺産登録

プロフィール

- ◆ 面積 683・78 km²
- ◆ 人口 8万4125人
- ◆ 世帯数 3万7486世帯

〔将来都市像〕人が輝き 活力あふれる 日本のお宝島「天草」。

〔まちの特徴〕熊本県の南西部、周囲を藍く美しい海に囲まれた天草上島と天草下島および御所浦島などで構成する天草諸島の中心部に位置し、面積は683・78 km²で県内最大を誇るまち

〔市町村合併〕平成18年3月27日、本渡市、牛深市、有明町、御所浦町、倉岳町、栖本町、新和町、五和町、天草



天草市長
中村五木



町、河浦町の2市8町が合併

〔特産品〕デコポン、あまくさ晚柑、ボンカン、天草黒牛、天草大王、伊勢エビ、ブリ、マダイ、車エビ、干しダコ、天草陶磁器

〔観光〕世界文化遺産候補「天草の崎津集落」、イルカウォッチング、天草ジオパーク、雲仙天草国立公園、天草夕陽八景

〔イベント〕牛深ハイヤ祭り、天草ほんどハイヤ祭り、天草マラソン大会、天草大陶磁器展

を必ず成し遂げ、このビッグチャンスを生かして観光振興、地域振興につなげたいと思っております。

昔ながらの漁村とそれを見守るようにたたずむ崎津教会、キリスト教の歴史が今なお息づく崎津集落は、天草を感じる事ができる場所です。ぜひ、多くの皆さまにおいでいただきたいと思えます。

※ 面積は国土地理院「全国都道府市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。